

令和7（2025）年度 第1回かしわざきこども大学運営協議会 議事録

- * 日 時 令和7（2025）年6月26日（木） 午後6時30分～8時10分
- * 会 場 柏崎市役所 4階 4-3・4-4会議室
- * 出席委員 8名：岸勝巳委員、片桐秀樹委員、蓮池純夫委員、三井田正志委員、岡村美奈子委員、関沢恵委員、土田由紀委員、村山智恵委員
- * 欠席委員 なし
- * 事務局 8名：田中光司教育部長【学校教育課】山之内知行課長、廣田多恵子係長、千原健志副主幹、廣田雄大主査【商業観光課】土田洸希主事、北村杏奈主事

- 1 開会 進行：廣田係長
開会宣言

- 2 挨拶 山之内課長

かしわざきこども大学は、学校や家庭では得難い多様な体験活動を通じて、子供たちの生きる力を育むことを目的に取り組んでおり、本年で18年目を迎える。今年度、委員8名のうち4名は初めて参加していただく方であり、私自身も初めての参加となる。

昨年度の3月10日に開催された令和6年度の第3回運営協議会の議事録を拝読した。各事業が大変魅力的であり、ふるさとである柏崎の良さを子供たちが実感できる内容であったことが、参加者の感想等からも伝わった。一方で、本事業全体の大きな問題として、基金の減少という財源面の現状も明らかになっている。先細りする基金を見据え、事業の見直しが必要であるという結論も示されている。

今年度は、かしわざきこども大学の原点を再確認し、次なるステージへ向けての新たなスタートの年になると考えている。新任の委員と、これまでの経緯も知っているベテラン委員の皆様とともに力を合わせ、より良い方向性を見出していけることを期待している。柏崎の未来を担う子供たちのために、皆様の知恵と力添えをお願いしたい。

- 3 委員・事務局自己紹介

- (1) 新任委員の紹介

岸勝巳委員、三井田正志委員、岡村美奈子委員、村山智恵委員が令和7（2025）年4月1日付けで新たに委嘱された。

- (2) 自己紹介

名簿の順に自己紹介を行った。

- 4 会長・副会長選出

かしわざきこども大学運営協議会設置条例第5条「協議会に会長及び副会長をそれぞれ1人置き、委員の互選によりこれを定める。」に基づき、立候補者を募るが、立候補なし。事務局から、会長を岸委員、副会長を関沢委員とする案を提示。

一同異議なし。

5 挨拶 岸会長

この庁舎の4階から見る米山が美しく、本日市役所に来るに当たって楽しみの1つであった。この景色はインターネットでも毎日更新されており、市外に住む息子と連絡を取り合う際の話題になっている。米山の景色は柏崎の象徴だと思っているが、こうして生まれ育ってきた環境が残り続けていることは本当に尊いことである。

こども大学事業についても、18年間という長きに渡って続いてきたわけであるが、今年度についても、事業の成果が出るよう意見を述べさせていただきたい。皆様からも忌憚のない意見をいただきたい。

議事 進行：岸会長

(1) 令和6（2024）年度 決算について 【事務局】

ア コース全体について 資料1

令和6（2024）年度かしわざきこども大学決算書に基づき説明した。

イ こどもの笑顔創造プロジェクト補助金 資料2

令和6（2024）年度は、計9団体が事業を実施した。実施報告に基づいて補助金額の確定を行い、計1,585,000円の補助金を交付した。

この他、令和6（2024）年度の事業内容についてまとめ、9月を目途に実施報告書を作成する予定である。

一 質疑・応答一

【委員】 バスの借上料について、予算に対して支出が低く抑えられたのはなぜか。

【事務局】 コースの企画・実施に当たり、予算編成時に想定していたよりも借上げる時間が短くなり、かつ、台数も少なくなったためである。また、複数の事業者から見積を取り、低額である者に発注していることも要因の1つである。

【委員】 喫緊の課題として財政難がある。この後に詳しい話があるだろうが、令和7（2025）年度も、令和6（2024）年度とおおよそ同規模の予算編成としている。基金はいつ尽きることになるのか。

【事務局】 今後の支出を抑制していくという前提で、令和14（2032）年度までは基金を使っていけるという計算をしている。支出を抑えて事業を長く続けるか、あるいは継続期間が短くなったとしても現在と同規模で続けるのかということについては、引き続き検討する必要がある。

【委員】 活動内容が予算に見合ったものなのか、そして、あと何年続けられるのかということも念頭に置いて、委員の皆様から意見をいただけると良い。年間約600万円の事業費として単純計算した場合、基金は5年ともたない。早めの議論と対応が必要である。

【委員】 少子化が進んでいるため、それに合わせた内容の検討が必要である。今と同じ事業を続けていっても、思うような参加者数にはならないだろう。それも考慮した予算と事業の編成が必要と考える。

【委員】 収入を得ていく方法も考える必要がある。現在の寄附は、募るためのPRを行っているのか。新規の寄附者開拓のため、ホームページなどで募集しているのか。

【事務局】 ホームページに掲載しており、令和6（2024）年度はそれを見た方から寄附をいただいた。これまで、ホームページ以外で積極的な寄附のPRは行ってこなかったため、収入を増やすための工夫も必要と考えている。

【委員】 各種コース等の参加者が、それがこども大学の事業で行われているものと認識することも大切である。例えば保育園について、対象者がバスに乗って自然体験できているのは、この事業のおかげである。保育園の事業費ではなく、こども大学の事業で基金が使われていることを周知する必要がある。各年代で対象となるコース等があり、多くの子供たちが恩恵を受けているため、それを認識してもらうための手立てが必要である。他の基金では、活動するに当たって基金を利用している旨の各所への明記を必須にしている場合もある。本事業についても、学校だよりなどで保護者への周知を必須とするなど、基金を利用していることが伝わる手段を検討していただきたい。それにより寄附者が増える可能性もある。

【事務局】 教育委員会所管の別の会においても、こども大学の取組みについて高い評価をいただいている。また、その会の中で、柏崎の子供たちのことを考える企業もあるはずであり、うまくPRすれば寄附者も増えるのではないかという話もいただいた。寄附のPRについては今後検討していきたい。

また、基金を利用した事業であることの周知についても、今後の検討事項とさせていただきます。他課の事業ではあるが、各地区のコミュニティセンターにおいて行われる子供に関する事業や敬老事業などに対して、活動推進の補助金を交付している。この補助金を使って事業を行う際には、補助金を活用している旨を各所に明記することをルールとしている。そうした事例も調べながら検討したい。

【委員】 各委員においては、今出た意見も踏まえた上で、今後も御意見をいただきたい。結論が出づらいたらうが、常に検討していく必要がある。

(2) 令和7（2025）年度 実施予定事業、予算について

ア 各コースの概要、予算について 【事務局】 資料3

令和6（2024）年度から約40万円減とする7,114,600円の予算編成とし、「柏崎の『水』探求コース（仮）」を新設する。他のコースについては、前年度からの継続である。

イ 各コースの実施計画等について 【事務局】

(ア) 自然体験コース 資料4

今年度は、柏崎市内の幼稚園・保育園等30園から参加いただいている。5月9日から順次、柏崎・夢の森公園及び県立こども自然王国での体験プログラムを実施している。

(イ) キャリア教育コース 資料5

「いきいきゲーム」とは、世界経済の仕組みや、社会の仕組み、働くことについて1日かけて楽しみながら学ぶシミュレーションゲームである。

令和7（2025）年度の実施予定校は、鏡が沖中学校、県立柏崎翔洋中等教育学校、第二中学校、東中学校の計4校9クラスである。県立柏崎翔洋中等教育学校

は、2クラス編制だが、クラスごとの人数が少数のため、2クラス合同としている。

なお、「いきいきゲーム」の供給元から、今年度末で取扱いを終了する旨の連絡を受けている。次年度のキャリア教育事業については、代替案を検討していきたい。

(ウ) こどもの笑顔創造プロジェクト 資料6

計7団体から交付申請を受け、交付を決定した。補助金交付決定額は、合計1,258,000円である。なお、新規団体の応募は無かったため、全て以前から継続の団体である。

(エ) 学校教育活動推進事業 当日配付資料

地域と連携した活動など、学校ごとの特色ある活動に活用している。配布した計画書で各校の取組みを見ていただき、委員の皆様からもより良い活動のアイデアをいただけるとありがたい。

(オ) 国際交流コース 資料7

12月20日(土)にクリスマスの集いと称してイベントを企画した。柏崎・刈羽で勤務しているALTとのふれあいを通して、様々な国の文化に触れる体験を考えている。市民プラザを会場に、午前中の日程で計画している。

昨年度の会議で委員から提案いただいた海外の水球チームとの交流会であるが、海外チームの動きが流動的であるため、あえて計画として資料は作成していない。来柏の動きがある時に対応できるよう準備をしている。

(カ) エネルギーのまち、柏崎探求コース

環境課と連携して実施している事業であり、今年度は「水素」をテーマとした内容で、(株)リケンに協力いただく予定である。内容については調整中であるが、本日の配布資料のとおり、(株)リケンから実施内容案をいただき、大筋としてはこの内容で進める予定である。日時は10月4日(土)の午前中とし、親子15組を募集予定である。

(キ) 柏崎のまち探検コース

柏崎市の歴史や文化財、産業などを学ぶ場を提供し、子供達の柏崎に対する郷土愛を育むコースとする。実施時期は、11月中旬の土曜日に半日で実施予定である。市内のものづくり産業の工場や、伝統工芸の工房見学などができるよう検討中である。

(ク) ドローンプログラミング教室

新潟工科大学の協力により、プログラミング教室を実施する。詳細については今後調整していくが、令和8(2026)年1月24(土)に市民プラザでの実施ということは確定している。

(ケ) 柏崎の「水」探求コース(仮)

市の水道事業が90周年を迎えるということで、上下水道局との連携のもと、柏崎が誇る資源である「水」をテーマとしたコースを計画した。11月8日(土)を実施予定日としており、谷根・青海川地区を巡る内容としている。具体的な見学内容やタイムテーブルなどは、今後調整していく。

前年度の予算編成時に想定していなかった事業であるが、他のコースで見込まれる予算残額を流用して実施することとしたい。

いずれのコースも柏崎市公式ホームページ、広報かしわざきへの掲載、チラシの配布による周知を行う予定である。

－質疑・応答－

【委員】 国際交流コースが定着しつつあることを嬉しく思う。他の国との交流は、なかなか経験できないことである。昨今のニュースで、他国の物騒な状況も見聞きする。普段の仕事で子供と関わっていると、そうした他国のことを質問されることがある。子供たちに説明することは非常に難しいことであるが、楽しい遊びだけでなく、日本が置かれている状況や生活への影響についても学ぶ機会があると良い。今年交流する国はすでに決まっているのか。

【事務局】 水球チームについて、当初はシンガポールの話が来ていたが、急遽中止となった。今後は、台湾やフィリピンなどのチームが来ることを想定している。

【委員】 アジア諸国の状況について、学校で学べない部分も多々あるため、こうした場が1つの学習機会になると良い。

新規事業である水の探求コースについて、米作りや酒造りなど水が大きく影響する営みもあるため、昨今の時事や産業ともリンクさせながら学べると良い。

中学生から資格について質問されることがある。多様な資格がある中、中学生や高校生でも取れる資格が数多くある。一般的には大人になってからの資格取得が多いだろうが、子供のうちからの資格取得についても、1つのテーマになると面白いのではないかと思う。

【事務局】 次年度、商業観光課としてキャリア教育事業を行う場合、柏崎市の企業と連携した取組みを想定している。具体的な内容が定まっているわけではないため、資格というアイデアも検討材料の1つとして持ち帰らせていただく。

【委員】 難しい内容でなくとも、子供たちは資格というものが分かっていないと思うので、資格全般の話ができると良い。

【委員】 チラシ等で各コースの情報は得るが、土曜日の開催が多く、会場も市内中心部であるため、送迎の都合もあり参加したことが無かった。市内全ての子供たちが気軽に参加できると良い。

各コースで募集定員があるが、例年の参加状況について教えていただきたい。すぐに定員に達するのか、あるいは参加者が集まりづらいのか。市民の認知と人気の度合いを知りたい。

また、どのような子供が参加しているのか。様々なコースで同じ子供が参加しているのか。あるいは初見の子供たちが多いのか。1人で参加することのハードルが高いと思っている。内容によっては関心があっても、友達がいないと参加しづらく、萎縮している状況もあるのではないか。そうした状況を考えると、規模の大きな学校の子供たちの参加が多いのではないかという印象である。

【事務局】 まず、例年の申込み状況であるが、実態として定員は埋まりづらい。参加が増えるような内容の企画は、事務局として常に課題である。

参加する子供の状況について、各コースで扱う分野も異なるため、基本的には様々な子供の参加があるが、中には毎回参加してくれる子供もいた。テーマによって

は、保護者の方が関心が高いという場合もある。

令和6（2024）年度に4つの新規事業を立ち上げ、今年度も継続するため、今年度実施してみると毎年のリピーターについても様子が分かるだろう。リピーターもありがたいが、参加したことが無い子供たちの参加を増やすべく工夫していきたい。

昨年度の事業については、基本的に親子での参加としていた。今年度について、内容によっては子供だけの参加も可とする予定だが、親の参加を拒むつもりはない。親子で参加したり、友達を誘ったり、各々の状況に応じて参加しやすい形で利用してもらえるようにしたい。

市内中心部の子が参加しやすい状況については、そのとおりである。見学先によっては集合場所を変えるなど、どの地域の子でも参加しやすいような工夫も考えていきたい。

【委員】 いきいきゲームについて、PTAの中でも、財政難でも継続してもらいたいという話をしていたところだが、そもそも提供ができなくなるということで残念である。次年度以降については検討するとのことであるが、是非、経験した子供たちの声も聞きながら検討していただけると良いと思う。

【委員】 いきいきゲームが提供できなくなる理由について、もう少し詳しく教えていただきたい。

【事務局】 全国でも実施しているのは4市町村程度と聞いている。利用が減っている中で、提供元が取扱いを終了する判断をしている。また、内容についても、20～30年前の社会の仕組みとなっている部分があり、現代の状況に合わなくなっている。

【委員】 ゲーム形式の金融教育に関しては、別の団体も実施しているはずである。講師をどうするかという問題はあるが、青年会議所に相談すれば何らかの協力を得られるかもしれない。

【事務局】 講師の問題も含め、検討材料の1つとさせていただく。

【委員】 国際交流コースについて、昨年度はどの程度の参加があったか。

【事務局】 昨年度は、40名という多くの参加があった。昨年夏に実施したイングリッシュキャンプで多数の申込みがあり、抽選となったため、落選した方にこのコースを案内したという経緯もある。

【委員】 高校生の参加はあったか。

【事務局】 対象を小学生から高校生までとして募集したが、高校生の参加は無かった。小学生が参加できる内容としているため、高校生にとっては少々幼い内容に映ったかもしれない。

【委員】 様々な取組みで、高校生が参加しないことが柏崎の問題だと思っている。何らかの形で高校生が関わるような文化ができると、持続可能なまちづくりにも繋がるのではないか。

【事務局】 高校生が先生役になるなど、役割を変える工夫も入れると、面白い活動が展開できるかもしれない。

【委員】 柏崎において、運動競技については、高校生が小・中学生と関わる土壌ができています。文化的活動についても関わりができると良い。

- 【委員】 社会福祉協議会で福祉教育を推進しており、今年も学校の総合学習における依頼があるが、こうした活動の講師謝礼等が学校教育活動推進事業により支出されており、基金が原資となっていることを知ることができた。基金が先細ることによる影響が心配である。
- 【事務局】 学校ごとに様々な分野で学校教育活動推進事業を活用している。福祉分野では地域とのつながりも生まれている。
- 【委員】 こども大学、学校教育活動推進事業による教育活動の原資が寄附金であること、また、基金が減少しているという状況を保護者は知らない。こども大学の名前を知ってもらう必要がある。こども大学が行った事業について周知しているのか。
- 【事務局】 ホームページ上では事業実績も公開しているが、積極的なPRは行っていない。
- 【委員】 こども大学について保護者が知ることで、参加者の増加にもつながり、良いサイクルが生まれると思うので、こども大学が市民に根付くようにしていただきたい。
- 【委員】 過去には、1年に2千万円、それを6年間、市の会計から基金に積み立てていた。そこに市民の寄附も加わって運営することができている。基金の成り立ちや寄附の状況など、知らない方が多数であるため、何らかの形で知らせていきたい。水に関する新規事業について、飲み水は柏崎が県内でもトップの素晴らしさだと思っている。ダムを造った先人の素晴らしい業績を是非子供たちに伝えていただきたい。

(3) その他

- 【事務局】 「こどもの笑顔創造プロジェクト補助金」について、補助金の終期が今年度末までとなっている。昨年度末の運営協議会でも補助金の見直しについて議論があったが、今年度は新規の応募団体が無く、同じ団体がおおよそ同じ内容で申請しているという状況である。基金が減少しているという背景のもと、本来の補助金趣旨からのずれや、地域と一体となって子供を育む体制が構築されているという一定の成果も踏まえ、事務局としては終期のとおり今年度末で終了したいと考えている。庁内の補助金検討委員会に諮る手続きが9月頃であるため、本日の会で委員の意見をいただきたい。
- また、次年度の取組みについて、次回の運営協議会で委員の皆様からもアイデアをいただきたい。可能な範囲で、次年度の予算編成に生かしたい。
- 【委員】 この補助金が無くなった場合、他の形でのバックアップは可能か。
- 【事務局】 基金が目減りしている以上、代わる仕組みを作って基金から支出するのでは状況が変わらない。現在申請されているものについて、学校主体のものであれば学校教育活動推進事業、コミュニティセンター主体のものであればコミュニティ活動推進事業の補助金の対象となる内容である。どちらも上限額があるため単純な増額はできないが、団体の他の事業も含めて内容を精査してもらうことで継続は可能と考える。
- 【委員】 こども大学事業の今後の方針が固まっていないため判断が難しいが、申請している団体からの継続の要望や、終了すると困るというような状況は聞いているか。
- 【事務局】 この件については、まだ団体に伝えていないが、当然、無いよりはあった方が良

いという意見になるだろう。補助金が無くなることで、団体の活動が完全に止まってしまうのかなど、個々の状況までは把握していない。ただ、限られる財源の中でできることを事務局として考える必要がある。

【委員】 以前からこの補助金について問題視していた。何年も続けて同じ団体の同じ活動内容に対して交付している状況であるため、事務局の判断が正しいと考える。基金が潤沢にあれば話は別だが、現状を踏まえると妥当である。

【事務局】 学校教育活動推進事業の運用方法も含めて検討していく必要がある。

【委員】 いずれにしても活動内容の見直しは必要である。学校や家庭でできない取組みという理念に則って考える必要がある。

【委員】 団体は、令和7（2025）年度末で終了することを認識しているのか。また、補助金の終期について説明はされているのか。

【事務局】 団体に案内している交付要綱では終期が明記されているが、認識しているわけではない。終了するとした場合、団体の次年度の活動への支障を考え、できるだけ早期に伝える必要がある。

【委員】 昨年の会議でも、継続して申請している団体について、本当に必要なのかという議論があった。以前から、申請すれば通るという雰囲気があり、審査が上手くできていなかった部分がある。

終了するという方向性で決めるのであれば、団体へ早めに打診していただきたい。また、この補助金に限らず、こども大学の事業全体として、今後支援していくべき内容は整理する必要がある。市の財源を使っている以上、明確な成果も求めるべきである。

【事務局】 この運営協議会は、決定する機関というものではない。本日いただいた意見を踏まえ、事務局が責任を持って決定させていただく。

【委員】 最終的な判断は事務局に委ねる。ただし、終了するのであれば、団体には早期の連絡をお願いしたい。

また、各委員においては、令和8（2026）年度の事業について次回の会議までに考えておいていただきたい。

4 連絡事項 【事務局】

(1) 今後のスケジュールについて

ア 第2回運営協議会…10月上旬を予定（令和7（2025）年度実施事業の報告、令和8（2026）年度実施予定事業・予算の検討）

イ 第3回運営協議会…3月上旬を予定（令和7（2025）年度実施事業の報告）

(2) その他

本日の報酬と費用弁償については、7月18日（金）に支払い予定。

5 閉会 田中教育部長

本日の会議では、様々な御意見をいただき感謝申し上げます。昨年から続く基金の残高に係る議論だけでなく、基金の使い方についての示唆もいただいた。会長からは、この基金の成り立ちについてもお話をいただいた。長く事業を続けていると、この先もずっと続いていくような感覚になるが、続けるためには寄附を集めるPRやこども大学の周知も必要である。今年度も

昨年と同規模のコース運営だが、コースが多岐に渡っているため、運営に難儀する部分もあるだろう。水の事業に関しては、上下水道局も力を入れて様々な取組みを行っているため、委員の皆様からも目を向けていただけるとありがたい。

基金の減少という問題も抱えているが、この事業を通じて柏崎の子供たちが健やかに成長し、柏崎のまちに対する関心を持ち続けてくれることを期待している。それぞれの事業がこども大学の目標に迫っていけるよう、委員の皆様の知恵も借りながら、今後も事業を運営していきたい。